

組NEWS合

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
発行：金沢大学教職員組合執行委員会
住所：金沢市角間町 角間内線2105
直通電話(076)262-6009 (FAX同じ)
E-mail kanazawa@ku-union.org
ホームページ http://www.ku-union.org

2010年9月1日

通巻 1146 号

この号の内容

執行委員長挨拶	1 P
副委員長・書記長挨拶	2 P
全大教定期大会の報告	3 P
教研集会報告	4 P
第67回定期大会案内	4 P
事務職員登用試験実施要領	4 P

2010年度 執行委員、所信表明です。必読ください！



賃金カットされないような大きな組合にしましょう！

喜成年泰



「いや～タイヘンな時期に委員長を引き受けてもらってゴクロウサン！」組合関連の諸先輩から頂戴する励ましのお言葉。「エッ？今タイヘンだったんですか？？」オトリ刀で諸事情を勉強して……「確かにタイヘンな時期にタイヘンなおシゴトを引き受けてしまった」という後悔。

法人化の年にたまたま工学部分会長を仰せつかっていました。これまた「たまたま」の経緯で、最初で最後の小立野事業場の職場代表もお引き受けすることになりました。初代角間事業場代表山本敏郎さんのウシロを「親ガモのウシロを追いかける子カルガモ」よろしくヨチヨチ歩きで、なんとか小立野事業場代表を務めさせていただきました。

職場代表はスタッフを持たず、専門知識もなく、巧妙に準備された「当局側からの提案」のウラを見破るすべもなく……組合のみなさんにホントにお世話になりました。

それ以来、組合の役員改選の時期になると「今年本会役員どうですか？」のお誘い。「今、チョット忙しいのでスミマセン」と断り続けるのも随分長くなりましたので、「書記次長くらいでよろしければ……」と回答したつもりがいつのまにか？

知識も見識も経験もナイ人間を委員長に据えようと「船はどこへ向かうか」心配ですが、「金沢大学LOVE」だけは人一倍持っているつもりです。加えて末松副委員長（正・副逆じゃナインですか？）をはじめ力強い執行委員会を組織していただきました。みなさんの協力をいただいて金沢大学教職員組合を拡大して行けたら……と考えています。

私事になりますが……15歳で金沢大学の生徒の肩書きをいただいてから30ウン年間、金沢大学に育てていただいて、金沢大学にメシ喰わせ

ていただいています。

地場産業密着の繊維機械なんぞという研究分野は科研の分類にもありませんので他の大学で雇って貰える見込みは皆無です。金沢大学を良くするしかないことが「金沢大学LOVE」の理由でしょうか……。

私の「イイ大学」の基準は単純明快で、10番目でなくても、30番目でなくてもイイですから、卒業生が胸を張って「出身は金沢大学です」と言える大学であって欲しい！それだけです。そのためにはイイ研究者、イイ教育者が集まってくれなくてはいけません。スタッフが眉間にシワ寄せてガンバリ続けなければならない職場でも困ります。イイ環境を用意するべきです。それこそが10年後、20年後のイイ金沢大学を作る「肥やし」です。

あまり得意ではありませんが、今から当局と闘っていかねばなりません。当局も「金沢大学を良くしたい」という気持ちをお持ちだと思います。ただ3年とか5年とか、短い期間でその成果を挙げたいためにムリをされ、「毒饅頭」を承知で外部資金に食らい付き、人件費を押さえ込み、文部科学省のご機嫌を取り結び……促成栽培に精を出されていることと理解します。

しかし始末の悪いことに当局は権力をお持ちです。教職員1人、1人では権力者と立ちむかうことはできません。職場環境を良くしてイイ同僚を増やし、10年後、20年後の「イイ金沢大学を作り上げていく」ために組合の拡大は不可欠です。そのためには組合員お1人、お1人の協力が必要です。知らんぷりして素通りしているそこの准教授さん、4万円の組合費ケチってH21年度はボーナス20万円カットされましたヨ！今年も追加で10万円カットされそうですヨ！！

一緒に闘いましょう!!!

困ったことになっている大学の事態に歯止めをかけたい。

末松 大二郎

2010年度
副委員長



国立大学の法人化が実施された年度に役員をつとめてから、既に5年の月日が流れましたが、今季、再度、役員として微力を尽くさせていただくことになりました。あの時、法人化に際して、多くの人たちが指摘し、また危惧していた諸々の事態が大学の周辺で起こっています。

法人化を進める勢力がメリットだとした多くの事柄は、少なくとも大学の教育研究の中枢をになう末端の教職員にとっては全くの嘘っぱちだったということが明らかになっています。大多数の教職員は多忙化し、日々の業務に追われ心と身体の余裕を失っています。このような今の大学に果たして明るい展望はあるのだろうか？

日々、頭をよぎる疑問です。

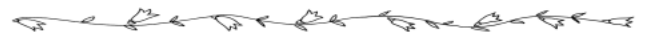
私は「原子分子よりはるかに小さな素粒子の世界の性質が銀河分布などの宇宙の巨大構造を決定している」というような一般的な社会生活とは全くかけ離れた全く役に立ちそうにもない事柄を主要な研究テーマとしています。

この様な研究を行えるところが大学だと大学の教員を志望したはずなのに、近年、特に法人化以降、経済効果を生み出さないもの、役に立たない

ものは悪だと言わんばかりの狭隘な社会的風潮は、悲しいかな大学の中にも蔓延してきているように感じます。いや、むしろ困ったことにそのような風潮のお先棒を担いでいるのが大学であるといえるようなところさえ見え隠れしているように思われます。こういう今の大学において、このような流れに一定の歯止めをかけられるものは、色々な意味で、もしかしたら組合活動だけなのかもしれない。

昔、学生時代に読んだ坂田昌一の著作集のなかに見つけた「研究を中断してでも取り組まなければならない社会的活動が存在する場合もある」という趣旨の言葉が心に浮かびます。

皆さんの組合活動へのご支援ご協力よろしくお願いたします。



2010年度
書記長



《組合号》の操舵手、全ういたします！ 石黒 盛久

今年度の書記長に選任された石黒です。子供のころからリーダー・シップに乏しく、〈長〉となる器のこれほど無い人間も少ないように思います。一昨年、先々代委員長の名古さんに直談判され、「今年は無理なので来年なら」と苦し紛れに答えてしまったのが運の尽きでした。

本学に着任早々新米組合員なのに書記次長を勤めた際、当時書記長の任に当たっておられた有能な能川さん（正に苗字の通り案件を流れる水のようにとり捌いておられました）の傍らで、自分にはとても書記長は務まらないとしみじみ感じたものです。

それだけにこれから一年間、《組合号》の操舵手として本年の組合活動を、難破させずに港まで滑り込ませることができるか、全く自信がありません。皆様方の多大なるお力添えをどうかお願いいたします。

さて非才を承知で書記長の大役をお受けしたのも、法人化以来大学の状況がそこで学ぶ学生さんはもちろん、教職員にとっても、もっと言えば研

究教育機関としての大学そのものにとっても、何一つ良い方向に変化していないことに対する憤慨からです。それが着手される前から明瞭だった誰のためにもならない変革が、異常な熱意のもとに強行されるのを見るにつけ、その背後で誰が何のためにこんなことをやっているのか、突き止めたという気持ちを鎮めることができません。

何かカフカの『城』のような世界に、迷い込んでしまったような気分につまられる今日この頃です。

とはいうものの気が弱く、何かというと妥協の途を探ってしまう性分。早速浮上してきた給与引き下げ問題、その奥に控えるより一層大きな問題である運営費交付金の大幅削減の可能性—私のようなナイーブな人間が、マキアヴェリスト揃いの当局にどこまで太刀打ちできるか、今から不安ではありません。

繰り返しになりますが、こんな私が無事に職務を全うできるよう、出来る限りのご助力をお願いして、就任のご挨拶に代えさせていただきます。

全大教 定期大会に参加して

7月24日(土)、25日(日)の二日間、東京での全大教の定期大会に参加しました。

猛暑の中、全国から代表者が集まり、2010年度の運動方針や、ボーナスカットなどに対応した各大学の状況などが話し合われました。

昨年1年間の最大の出来事は、ボーナスカット、賃下げ反対闘争でした。各大学の成果を一部紹介します。

鹿児島大では、なんと12月期のボーナスカットがなされなかったそうです！鹿児島大には及びませんが、教員への研究費として4万4千円程度支払われた金沢大の場合は、全国的にみてもまずまずの実績のようです。代償措置が得られなかった単組も20以上あるようです。

このほか、和歌山大では、非常勤職員の方に「特例報奨金」として一律5万円が支給されました。一方北海道大学は、交渉の場で、当局側がとても代償措置とはいえない内容を提示し、議論もせず一方的に退席しました。北大教職員組合は、大学の対応は団交拒否であるとして、労働委員会に不当労働行為の救済申請を行いました。まもなく審問が始まるとのことです。

国立大学は、今回の賃下げ対応の成果に関してもそうですが、内部に抱える問題が多様になっています。全大教に加入している単組の中には、余裕のある東大もあれば、厳しい財政状況に

おかれている地方大学もあります。各大学に対応した全大教の仕事は多岐にわた



り、ますます人も内容も充実させていかなくてはなりません。団塊世代の組合員の大量退職期のため、財政は細っています。安い賃料の建物に移ったり、役員数を減らしたりしていますが、少々不安です。各単組への支援が手薄になるのではないかと心配です。

また、大阪市立大が、全大教を脱退するとのことです。組織が分派していく報告を最後に聞きながら、単組ごとに強くならなければと思いました。

さて、わが金沢大学教職員組合も退職される組合員が多いため、中期的にみれば財政的にも活動レベルでも不安定です。とにかく組織拡大に地道に毎年取り組み、今のレベルの活動体制を維持しなくてはならない、と改めて思いました。(T)

教研集会報告

テーマは
多忙化問題



7月30日(金)に2010年度の教研集会を開催した。学期末の金曜日とあつてか、参加者は30名弱とやや寂しい集会となった(もう少し多くの人々の参加が得られるよう工夫していく必要がある)。

例年の教研集会は、設定したテーマに関する専門家をお招きし、講演をしていただいたうえで、そのテーマについて議論するという形式が多い。本年度はそれとはやや異なったことを試みた。

まず、テーマを多忙化とした。以前よりも忙しくなったという声をよく聞くようになったからである。だが、実際のところはどうであろうか。法人化とか大掛かりな組織再編

で、忙しくなったなどのイメージに囚われているだけかもしれない。

そこで私たちは、実際に多忙化の状況が存在しているのかどうか、多忙化しているとしたらそれはどの程度であり、どんなことがその原因であるのか、また多忙化が著しいのはどんな人であるのか、などを把握しようとした。かりに多忙化が現実であるとして、それに対する何らかの対策が必要だとするならば、実際の状況を正確に把握するから始めるしかない。

そこで私たちは、金沢大学の全教職員を対象として調査票を用いた意識調査を実施した。さらに、多忙化の状況について詳細な情報を得るために、聞き取り調査も実施した。教研集会ではこれらの調査の分析結果について報告した。そうした報告を受けて、参加者全員で意見交換した。

調査の結果は、法人化および組織再編以後、それ以前よりも忙しくなったと感じている教職員が多いことを明確に示している。単に主観的にそう感じているだけでなく、実際に仕事量や労働時間も増えている教職員が多い。そして、

それらの人々は、多忙化の帰結として、心身の状態に不安を抱えて仕事をしている。こうしたことを見過ごすことはできない。とくに、組合としてなにかができるのかを考え、解決策を見いだす努力をしていかなければならないだろう。

組合は、教職員の労働環境の改善のためにも、教職員の仕事の状況について定期的に調査を実施し、データを蓄積していくことが望まれる。今回の調査結果の詳細については、引き続き組合ニュースや組合のホームページ等でお知らせする予定である。

(人間科学系
田邊浩)



第67回定期大会案内

日時：10月22日(金)
18:00~21:00

場所：調整中



各支部、分会の代表員の参加をお願い致します。オブザーバー参加も大歓迎です。組合事務所までご連絡ください。

2010年度事務職員登用試験 受付開始

受付期間 9月1日(水)~9月15日(水)

試験日 筆記試験 10月17日(日)

個人面接 10月23日(土)

合格発表 11月30日(火)

受付場所 総務部人事課人事係

受験資格

- ・2010年度末の年齢が、30歳~57歳までの方
 - ・試験日現在、非常勤職員等(パートタイム職員については、正規の勤務時間が週30時間の方)として、本学に引き続き1年以上在職している方。
 - ・現在の勤務部署と異なる部署でも勤務が可能な方
 - ・職務に対する意欲と協調性がある方
- (実施要領より)